

文学部 歴史学科

# 東洋史コース

FACULTY OF LITERATURE  
DEPARTMENT OF HISTORY  
ASIAN HISTORY COURSE

学びの分野

東洋史 中国史

こんなキミに学んでほしい

中国を中心とするアジア諸国の文化や歴史に対して、  
継続的な知的探究心を持つ人  
アジアの歴史を学んで得た知識と能力を生かし、  
現代社会の発展に貢献していきたい人  
漢文や中国語の知識を学び、  
現代社会の発展に貢献したいと考える人  
史料や資料の分析方法、読解方法を身につけ、  
事実を見出す力を養っていきたい人

ワンポイントアドバイス

「近いのに、よくわからない」「近いから、もっと知りたい」  
どんなきっかけでもかまいません。  
私たちに身近な東洋の歴史を見つめ直し  
まだ見ぬ東洋の魅力を探ってみませんか？

このコースがめざすこと

## “覚える歴史”から“考える歴史”へ

東洋史コースでは、中国を中心にアジア諸地域の歴史を学びます。例えば、中国の歴代王朝・諸国による政治や経済の動きとその背景、さらにそれらの根底にある思想や文化まで幅広い知識を身につけます。ただし、高校までの勉強のように“覚えること”が目的ではなく、歴史的

事実の真偽を検証するなど、“考えること”に重きを置いている点が特徴です。新たな史料を見つけ、読み解いていくことで、これまで信じられていた歴史が覆ることもあるからです。この“考える力”こそが、社会に出てからの強みとなるのです。

3つのポイント

### 中国を中心に、古代から近代に至る東洋史を学ぶ

日本とアジア諸国との交流は不可欠だからこそ、中国をはじめとするアジアの政治史や経済史、社会史、思想史、文化史を学んでおくことには大きな意義と価値があります。

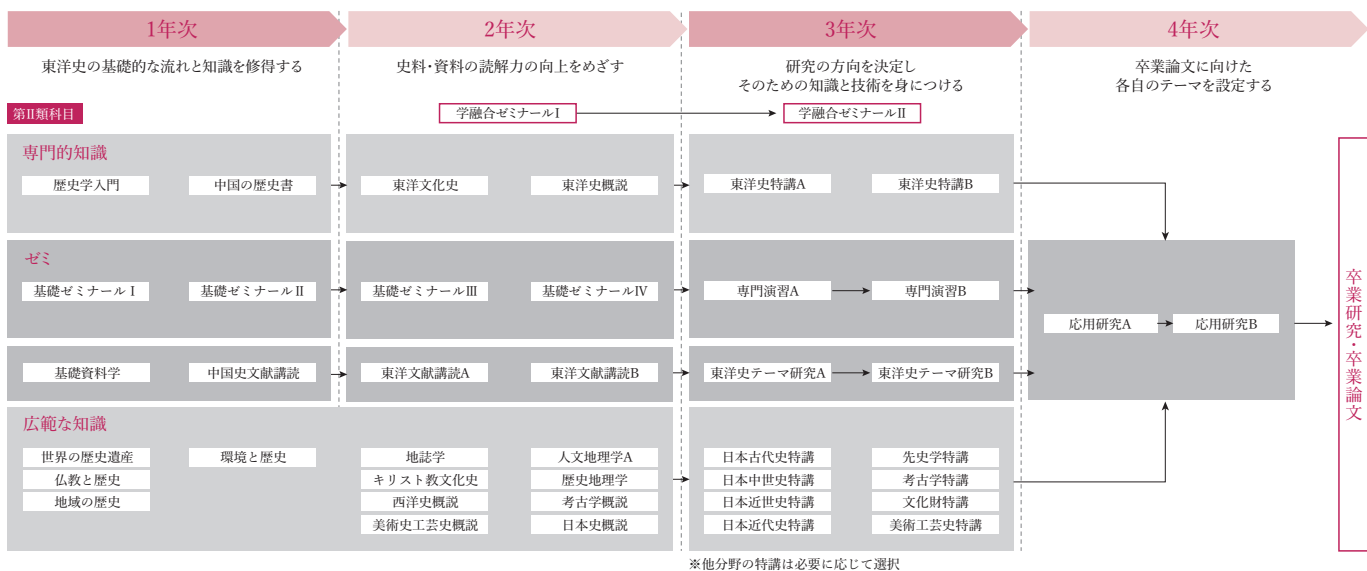
### 歴史的課題の解決に向け歴史を問い直す力を養う

現代に伝わる膨大な史料を分析することで、歴史の事実を問い直す思考力が向上。新たな視点の獲得によって歴史問題の背景を理解でき、課題解決の可能性も高まります。

### 中国語を学ぶことで研究が深まっていく

中国史を紐解くカギになるのが、漢文の読解力や中国語のスキルです。史料の分析やインタビュー調査、中国人留学生との情報交換、研究内容の発表などに役立ちます。

カリキュラム



## 東洋史コースの“学びのフィールド”



### 歴史基礎ゼミナール（東洋史）

「歴史基礎ゼミナール（東洋史）」では中国史を中心とした歴史学の方法を学びます。東洋史学を理解し、具体的な時代の流れや史料の講読法、基礎知識の修得をめざします。ゼミ合宿は、日本史や東洋史に縁のある地域で行い、史跡の見方や調査法を体験的に学びます。

私の理論×実践

### 漢文史料を読み解き、歴史を見つめ直す。

私が興味のあるテーマは、中国の楊貴妃をはじめとするアジアの女性史です。日本語訳のない史料を読み解くには漢文の知識が不可欠なため、まずは名詞と動詞の違いや主述関係を理解する力を高めました。こうしてわかったのは、多くの史料が男性目線で書かれているということ。楊貴妃が実質的に男性権力者の支配下にあった可能性すら感じられるのです。物事の本質を見抜くには多角的に史料を読む大切さを痛感したほか、現代のジェンダー問題に通じる部分もあるため、歴史研究の奥深さと醍醐味を感じるきっかけにもなりました。



高沢 美希  
歴史学科  
東洋史コース 3年  
神奈川県  
住吉高等学校  
出身

TOPIC

### 大学院生や上級生が日常的にサポート

東洋史コースの学生数は決して多くないものの、学年の壁を越えて学生同士が支え合い、学び合える仲間が存在が魅力です。普段は黙々と史料を分析していることの多い学生たちが、学園祭では1年生から3年生まで全員で協力して研究内容を発表。その間、卒業論文の作成に集中する4年生を大学院生が親身にサポートします。学生が博物館や中華街での“課外活動”を企画することもあり、楽しみながら東洋史を学ぶことができます。



### 卒業論文一例

- 日本統治時代後期台湾の政治運動  
― 「台湾同化」論と「台湾革命」論 ―
- 春秋時代の軍事と外交
- 後漢の豪族社会について
- 近代軍閥政権に対する国内世論  
― 北洋軍閥を中心に ―
- 後漢王朝における宦官と外戚の関係

### 担当教員

名前	職階	専門	研究内容
小林 伸二	教授	中国古代史	中国古代史のなかでも春秋・戦国時代の支配構造について研究をしています。諸国が対立と同盟をくり広げる国際関係を軍事と外交、中央集権を支えた政治思想の側面から見直し、秦漢帝国形成への新たな視点を定義したいと考えています。
宮崎 洋一	教授	中国近世史	清王朝の時代(17～20世紀)を中心に、中国の地域社会の様々な生産活動を分析することにより、伝統中国の特質と、19～20世紀にかけての変化を追っています。また、生産活動の進展により、自然環境がどのように変化し、人々がそれに対してどのように対策を講じたかも課題としています。
新藤 篤史	助教	内陸アジア史	近世の内陸アジア史を研究しています。とくに清朝(17世紀から20世紀にかけて中国を支配した王朝)を形成したマンジュ人、モンゴル帝国の後継集団を担ったモンゴル人、ダライラマ政権を確立したチベット人の関係について考察しています。これら3者の視点がなければ見出せないものを追求しています。

シラバス



<https://www.tais.ac.jp/faculty/syllabus/>

教員情報



<https://www.tais.ac.jp/chinavi/>